

『一人の笑顔のために』

総合運動部（ソフトテニス、バドミントン）開設

年々、部活動加入率が減少し、チームスポーツを行うだけの人数を確保するのが厳しい現状が、本校だけでなく他校でも見受けられます。少しでも運動に親しみ、健康・体力の向上を図りたいと考え、本年度「総合運動部」を開設し、ソフトテニスとバドミントンを実施することとしました。週3日、1時間程度の活動を行っています。

テニスコートの整備に感謝！

長い間使用されず、草だらけになっていたテニスコートが課題だったのですが、本校PTA鍋島副会長様のご協力により、写真の通り重機を使った整備を行っていただくことができました。本当にありがたく、総合運動部の生徒も喜んでいました。ありがとうございました。



お忙しい中、貴重な時間を学校のために割いていただいたその思いにふれ、次の話を思い出しました。

サンガイージュネーコラギ

神戸大学の教授であり、医師である岩村昇さんは、ヒマラヤの麓、ネパールの結核患者の治療にあたっておられます。岩村さんの病院は、山間部の恵まれない人々の治療にあたるため、眼下に雲を眺める1700mの山の上にあります。患者は貧しく、治療費の代わりに鶏や野菜をもってくることもあるそうです。岩村さんも坂道を上り下りするきつい巡回診療にも出られ、一週間、二週間、ときには一ヶ月も病院へ帰れないこともあるそうです。

ある村で重症患者を診療されたときの事です。病院まで身軽な者が歩いても五日はかかるといわれるところを、孫が二日目まではかついで行きましたが、たくましい山育ちの孫もとうとうまいってしまいました。岩村さんが困っておられたとき、「僕が背負ってあげましょう。」とある青年が申しでました。岩村さんは、「ありがたいんですが、謝礼はあげられないんですよ。」とおっしゃると、青年は慙然として、「わたしは謝礼がほしくて担ぐんじゃないんです。」と言いました。たまたま同じ宿場に泊まり合わせ、病院のある方向に行くという、いわば行きずりの旅人だったのです。

岩村さんが、「それじゃあ、なぜ・・・」と聞きますと、「サンガイージュネーコラギ（みんなでいきるために）」とさりりと言ったという事です。

「サンガイージュネーコラギ」岩村さんは一生この言葉は忘れないだろうとっておられます。岩村さんは、念仏のようにこの言葉を口ずさみながら、太陽光線に肌を焼かれながらもくもくと歩かれたそうです。青年もまた、老婆を背負い、はだして岩角を力いっぱいふみしめながら歩きとおしたということです。

別れるとき、青年は、「ドクター、おれは若い。健康で体力が余っている。余っている体力を、長い一生の旅路のほんの三日間だけおばあさんにおすそ分けしたただけだ。」と言って、一円もとらずに去っていったといいます。その足ははだして、身にまとっている作業服はもう何年も前に買ったものと思われるようにボロボロになっていたといいます。（上山勝 著 『人権教育講話集』より）